

つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとの発行を予定しております。皆様からのご意見やご要望、ご提案など、是非、本センターまでお寄せください。お待ちしております。

職種別特集 (第3弾) 【地域包括支援センター 職員】

地域包括支援センターは、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員など複数の職種で構成されていますが、この職種別特集では「地域包括支援センター 職員」として紹介させていただきます。



米谷 充氏

東通地域包括支援センターひだまり 管理者／主任介護支援専門員

趣味：DIY

好きな言葉：尊敬・敬愛・感謝

「市民からの相談も、関係機関からの相談も」

～住み慣れた所で長く穏やかに生活できるように

今回のインタビュアー

湊 聖子氏

ケアプラン支援センターふきのとう ケアマネジャー／秋田県中央地区介護支援専門員協会 会員
趣味：会社で飼っている犬を愛でる、日舞
座右の銘：知るを楽しむ



高齢者のことであれば、市民からの相談だけではなく、関係機関からの相談にも乗ってもらえる！
ケアマネジャーの湊聖子氏が、米谷充氏から地域包括支援センターの役割についてお話を伺いました。

高齢者の総合相談窓口です

湊氏 日常の業務でも大変お世話になっていますが、今日はインタビューとして来ました。よろしくお願いします。早速ですが、地域包括支援センターの役割について教えてもらえますか。

米谷氏 地域包括支援センター（以下包括）は、秋田市からの委託を受けて、平成19年から開設している高齢者のための相談機関です。市内に18カ所あり、介護保険や介護予防関係のサービス、保健福祉サービス、その他高齢者の日常生活の色々な相談に、専門知識を持った職員（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等）が無料で対応しています。相談対応の内容が非常に幅広いので、教科書的な表現になりますが、「高齢者が住み慣れた所で本人らしく少しでも長く穏やかに生活できるように支援するための総合相談窓口」と言えいいでしょうか。

湊氏 では、具体的にはどのような業務内容になるのでしょうか。

米谷氏 数としては、介護予防に関することも含め、介護保険関係が一番多いです。介護保険のサービスを利用したい方からの相談受付、要支援・要介護認定申請の代行、これからサービスを利用する場合はケアマネに引き継ぐ、などの対応をしています。それから、

市の高齢者福祉サービス（介護保険以外の高齢者向けサービス）の申請代行窓口としての機能も委託されていますので、配食サービスの利用や緊急通報システム設置の相談なども受けています。その他に、消費者被害や高齢者虐待など、高齢者の権利擁護に関わる相談対応や、認知症の方への対応として、地域の方々と協力して見守り体制を作るなども業務の一つです。また地域のケアマネへの支援も大切な業務の一つで、ケアマネからの相談を受けたり研修会開催などもしています。

湊氏 本当に内容が多岐にわたりますね。ケアマネからはどのような相談が寄せられるのでしょうか。

米谷氏 配食サービスなどの高齢者福祉サービスを申請したい、虐待が疑われる、入所にあたって身元保証人がいない、などが多いです。しかし最近では「高齢者の同居家族が自宅に引きこもっている。疾患を抱えている様子だ。支援を手伝って欲しい」という相談もあります。経済的な困窮など介護サービスの利用だけでは解決できない問題があるため、私たち包括職員と一緒に、関係機関につなげるなどしてお手伝いしています。

湊氏 介護保険や高齢者福祉の域を超えているという印象ですが。

米谷氏 例えば引きこもりの方への支

援であれば、市に担当職員がいますが、そこにつなげるまでには相当な労力を要しますので、ケアマネ一人では対応するのは大変です。介護の域は超えていますが、ここから先は引き継ぎ先の管轄ですからと切り離すことはできませんし、必要な専門機関を見極めて巻き込みつなげていく事も、私たちの大事な仕事です。

地域の医療機関からの相談も

湊氏 まさに包括支援ですね。話を少し変えて、今度は医療との連携について伺ってください。医療と介護の連携が大切だと、ここ何年も言われていますが、包括として取り組んでいる事はありますか。

米谷氏 これは秋田市内の全包括で取り組んでいることですが、年に数回「地域ケアネットワーク会議」を開催し、地域にある医療介護の課題などについて、地域の医療介護関係職種で意見交換をしています。その他に、必要に応じて関係職種が集まって個別のケース検討をする機会も設けています。これらは、課題への対応策検討の他に、日常の業務でお互いに声をかけやすくなるような関係作りも目的としています。そのお陰もあってか、開業医や薬局など、一定の医療機関からは「この患者さんに関わって」と連絡を受ける

ようになりました。

湊氏 医療機関から来る相談とは、どのようなものですか。

米谷氏 診療所の医師から「介護保険の認定申請を手伝ってあげて」と電話を受けることがあります。直接連絡をもらえると話がスムーズに進み、大変助かっています。先日は医師から「検査値が悪い。服薬管理が難しいのではないかな」という連絡を受けました。その方から直接話を聞いたところ、薬が飲めていない事と生活リズムの乱れが判明したため、医師に報告をして介護サービスの導入に向けて動きました。その後サービス利用と医師による処方薬の調整によって、病状も安定したようです。

湊氏 早めに介護につながった事で、病状の悪化が止められた例ですね。

米谷氏 これは上手くいった例で、金銭管理ができずにライフラインを止められた、外出先から戻れなくなって警察に保護されたなど、そこまで至ってから専門職に結びつく例も多々あります。もし診療所や薬局などで、患者さんへの支援の必要性を感じたら、早めにご相談頂ければと思います。

湊氏 どこに相談して良いか分からない場合も含め、まずは包括に声をかけてみる、という事ですね。ところでその役割について、医療機関では周知さ

れているのでしょうか。

米谷氏 実は、特定の診療所の医師などはこの例のように声をかけてくれるのですが、全体で見るとごく一部です。歯科診療所や薬局も含め、それ以外の医療機関からはなかなか声がかからない、というのが現状です。

湊氏 それはなぜだとお考えですか。

米谷氏 例えば、認知症の疑いがあったとしても一人で受診できていれば家族や包括に連絡するのを躊躇すると言われていた医師がいました。自分が踏み込むことで患者さんとその家族との関係、医師との信頼関係に影響が出るのではと心配されてです。人権やプライバシーの問題がありますからね。患者さんの変化に気づいても相談をつなげられずに困っている医師もいるのだと知りました。また、限られた診察時間内に患者さんの変化を見つける事自体が難しいのだと思います。診察中は皆さん緊張してすごくしっかり受け答えされますしね。

湊氏 患者さんを包括に紹介したい場合は、どのようにすれば良いですか。

米谷氏 もちろん患者さんの理解力にもよりますが、まず本人に同意を取ってつなげてもらえるのが一番良いと思います。「家族に言いたくなければ言わないから。でもこれは包括に相談した方がいいよ」と包括の連絡先を渡し

てもらえれば、それだけでも良いです。一番助かるのは、医師から「電話しておくよ」と患者さんに断り、直接包括に電話してもらうことですが。重症化や事故などのリスクを回避する事に繋がりますし、包括はその最初の窓口だと思っているのですが、私たちの周知不足もあり残念ながらまだ全体には浸透していないようです。

一職種で頑張らず、ぜひ相談を

湊氏 市民でも関係者でも、相談をするなら電話が良いですか。

米谷氏 そうですね。直接来て頂いても構いませんが、高齢者宅を訪問するなどして留守にしている場合もあるので、先にお電話いただいた方が間違いないと思います。

湊氏 最後に、包括から多職種に対するメッセージはありますか。

米谷氏 私たち包括職員も含め、医療・介護全ての職種がちょっとした気づきを気軽に相談し合えるような関係性になればと思っています。一機関、一職種で頑張ろうと思わず、上手に専門機関を巻き込んでいくのが良いですし、そのためにも包括を上手に活用してもらえればと思います。

湊氏 今日は改めて包括の役割を聞くことができ、私も勉強になりました。ありがとうございました。

インタビューの感想

少し緊張しました。次は高齢者に直接関わる医療従事者の皆さんと本音で情報交換できるサロンのような場所と機会があればと思います。

今回改めて包括の方からお話を伺い、本当に多岐にわたる支援をされていると感じました。今後とも相談しながら連携を図りたいと思います。

秋田市の地域包括支援センターはお住まいの地区ごとに窓口が異なります。**秋田市ホームページ**
(<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/koreishafukushi/1006009/1004861.html>)
からご確認いただくか、連携センターまでお問い合わせ下さい。

お知らせ

人生会議のリーフレットができました
希望する方へお渡しできますので、ご連絡ください。

秋田市役所 長寿福祉課
地域包括ケア担当
☎ 018-888-5668

多職種連携研修会のアンケート結果を、センターHPの「研修情報」に掲載しました。

人生会議のリーフレットは、連携センターHP「ダウンロード」から印刷もできます。

令和2年度 多職種連携研修会を行いました

2月21日、『医療・介護関係者のためのACP（人生会議）』をテーマとした多職種連携研修会を、オンライン開催いたしました。

当日は、医師会から推薦された医師6名と多職種12名、合計18名の方にご参加いただき、安藤秀明先生（秋田大学）からの講義と少人数制のグループワークにより、患者の意思決定支援について学ぶ機会になりました。



参加者からは「具体的で分かりやすかった」「集合研修に相当する内容だった」などの感想をいただきました。来年度はより多くの方にご参加いただけるよう、準備を進めてまいります。



秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金（祝祭日を除く）午前9時～午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号（秋田市医師会館内）

TEL：018-827-3636 FAX：018-827-3614

E-mail renkei-center@acma.or.jp

URL <http://www.acma.or.jp/renkei/>



編集後記

改めて包括の役割を聞く機会を得、私も湊さんと同じく、多岐にわたる支援内容に驚かされました。ここに記載しきれなかった内容は、またどこかでご紹介できればと思います。 熊谷

